

大妻女大：岡本順子、岡田安代、大森正司、矢野とし子、聖カタリナ短大：加藤みゆき
 岐阜大：長野宏子、産業能率短大：田中功、[○] 隣外国文献社：中村重男

《目的》引用文献は、その研究が何を背景に行われているかを知る重要な情報である。従って、引用文献の解析を行えば、逆に逐次刊行物の重要度も推定することが可能となる。農学をはじめ、他の分野ではほとんどの部門にわたって調査、分析が行われ、主要雑誌 (Key journals) のリストも発表されている。文献情報のきちんとした整理、情報の寿命、真の情報率を明らかにすることは、家政学における研究活動の一層の効率化をはかることができるものと考えられる。先に本研究では、家政学雑誌における引用文献¹⁾について解析を行ったが、今回は、その引用文献の流通について調査を行ったので報告する。

《方法》先に行った研究で明らかとなった家政学雑誌 Key journals の上位5種の和文誌日本家政学会誌、日本農芸化学会誌、日本栄養食糧学会誌、日本食品工業学会誌、油化学を対象に、1964年、1974年、1984年と10年おきに3年間分を調査した。各号の論文数、1論文の平均ページ数、受理されてから刊行されるまでの期間等について調査した。

《結果》①1論文の平均ページ数は '64、'74、'84年と変化するに従い、いずれの学会誌においても増加しているのが認められた。②受理から刊行されるまでの期間は、いずれの学会誌においても遅くなる傾向ではあったが、'84年において日本家政学会誌 12.9ヶ月、日本農芸化学会誌 6.4ヶ月、日本栄養食糧学会誌 7.8ヶ月、日本食品工業学会誌 8.8ヶ月、油化学 5.9ヶ月であった。

1) 家政誌 38, 1117 (1987)